

証券コード6859

エスペック株式会社
2024年度(2025年3月期)
第2四半期決算説明

2024年11月21日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

ESPEC CORP.

エスペック株式会社

代表取締役 執行役員社長の荒田でございます。

それでは、決算概要についてご説明いたします。

2024年度第2四半期 決算概要

受注高は国内外ともに好調、国内の生産能力増強の効果もあり増収増益

受注高・売上高・利益面のすべてにおいて過去最高を更新

	前年同期比	期初予想比
■ 受注高	○ すべての事業が増加、特に装置事業(環境試験器)が増加	○ すべての事業が増加、特に装置事業(環境試験器)が上回る
■ 売上高	○ すべての事業が増加、特に装置事業(環境試験器)が増加	○ 装置事業は予想通り、サービス事業・その他事業が上回る
■ 営業利益	○ 販管費は増加したが、増収・装置事業の原価率改善により大幅増	○ 販管費は増加したが、装置事業の原価率改善により上回る
■ 経常利益 親会社株主に帰属する中間純利益	○ 営業利益の増加により大幅増	○ 営業利益の増加により上回る

■ 配当は期初予想より修正なし(中間35円、期末45円、年間80円)

ESPEC CORP.

1

2024年度第2四半期の決算総括といたしましては、

受注高は国内外ともに好調に推移し、国内の生産能力増強の効果もあり増収増益となりました。

上期決算としましては、受注高・売上高・利益面のすべてにおいて過去最高を更新いたしました。

前年同期比では、受注高・売上高ともにすべての事業が増加し、特に装置事業の環境試験器が増加しました。

エリアでは、主に日本、北米の売上高が増加しました。

営業利益につきましては、販管費は増加しましたが、特に装置事業の増収および値上げによる原価率の改善により、大幅に増益となりました。

期初予想に対しては、受注高は特に環境試験器が想定を大きく上回り、売上高はおおむね想定通りとなりました。

営業利益につきましては、販管費は増加しましたが、装置事業の原価率改善により、期初予想を上回りました。

配当につきましては、中間35円、期末45円の年間80円を予定しており、期初予想から変更しておりません。

損益の状況

	2023年度 2Q累計実績	2024年度 2Q累計予想	2024年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
受注高	33,440	31,000	36,621	+9.5%	+18.1%
売上高	27,257	30,500	30,464	+11.8%	△0.1%
売上原価 原価率	17,771 65.2%	20,100 65.9%	19,326 63.4%	+8.7% 1.8pt改善	△3.8% 2.5pt改善
売上総利益	9,485	10,400	11,137	+17.4%	+7.1%
販管費	7,151	7,500	7,841	+9.6%	+4.6%
営業利益	2,333	2,900	3,296	+41.2%	+13.7%
経常利益	2,526	3,050	3,398	+34.5%	+11.4%
親会社株主に帰属 する中間純利益	1,653	2,200	2,452	+48.3%	+11.5%

こちらが損益の状況です。

前年同期比では受注高は9.5%増加、売上高は11.8%増加しました。

原価率については1.8ポイント改善しましたが、販管費は9.6%増加となりました。

営業利益につきましては、41.2%増加しております。

期初予想に対しては、受注高はプラス18.1%と大幅に増加しましたが、

長納期案件が多かったことから、売上高は想定通りとなりました。

販管費が予想よりも増加しましたが、原価率が2.5ポイント改善したことで

営業利益はプラス13.7%と、期初予想を上回ることができました。

セグメント別の損益の状況

(百万円)

		2023年度 2Q累計実績	2024年度 2Q累計予想	2024年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
装置事業	受注高	29,198	26,900	31,868	+9.1%	+18.5%
	売上高	23,533	26,600	26,469	+12.5%	△0.5%
	営業利益	2,175	2,680	3,013	+38.5%	+12.4%
サービス事業	受注高	3,785	3,700	4,176	+10.3%	+12.9%
	売上高	3,445	3,500	3,701	+7.4%	+5.8%
	営業利益	249	250	324	+30.3%	+29.9%
その他事業	受注高	655	600	808	+23.2%	+34.7%
	売上高	475	600	521	+9.6%	△13.0%
	営業利益	△88	△30	△31	-	-
連結消去	受注高	△199	△200	△232	-	-
	売上高	△197	△200	△227	-	-
	営業利益	△2	0	△10	-	-
計	受注高	33,440	31,000	36,621	+9.5%	+18.1%
	売上高	27,257	30,500	30,464	+11.8%	△0.1%
	営業利益	2,333	2,900	3,296	+41.2%	+13.7%

セグメント別の実績については、ご覧のとおりです。

2024年度上期実績 受注高について

- 受注高は前年同期比で減少予想だったが、国内外ともに好調に推移し
上期受注高は、4期連続で過去最高を更新

四半期ごとの受注高推移



2024年度上期業績について、もう少し詳しくご説明いたします。

受注高については、期初予想では、高水準が継続するものの前年同期比ではやや減少すると見ておりましたが、国内外ともに好調に推移し、上期としては、4期連続で過去最高を更新いたしました。

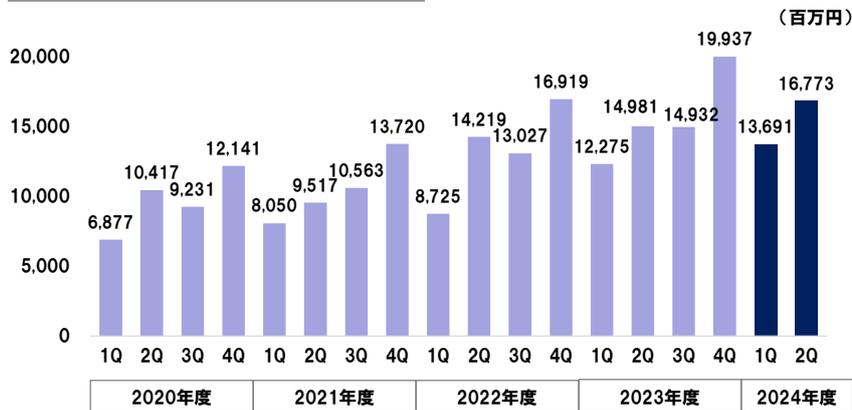
期初予想比で大きく上振れた理由としましては、国内では、EV・バッテリー関連の大型案件の前倒し受注が発生しました。海外では、北米や中国の受注が想定以上に堅調に推移するとともに、欧州では環境規制に伴うかけこみ受注がありました。

なお、前年同期比の為替変動によるプラスの影響は約10億円でした。

2024年度上期実績 売上高について

- 売上高は、生産能力増強の効果もあり特に国内が増加
上期売上高は、3期連続で過去最高を更新

四半期ごとの売上高推移



次に、売上高についてです。

今期は、国内の生産能力増強に取り組んでおりますが、その効果もあり、特に国内で売上高が増加いたしました。上期売上高としましては、3期連続で過去最高となりました。

なお、為替変動によるプラスの影響が約10億円ございました。

また、昨年9月に、当社子会社のコスモピアハイテック株式会社が日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社の環境試験装置事業を譲り受け、10月より事業をスタートしております。

これによる売上高への影響が、約10億円ございます。

なお、受注高については、昨年9月に受注残高を引き継ぎ、受注高として計上しておりましたので、影響は軽微でございます。

上期営業利益の増減要因分析

■ 販管費は増加したが、特に装置事業の増収および値上げによる原価率改善により増益



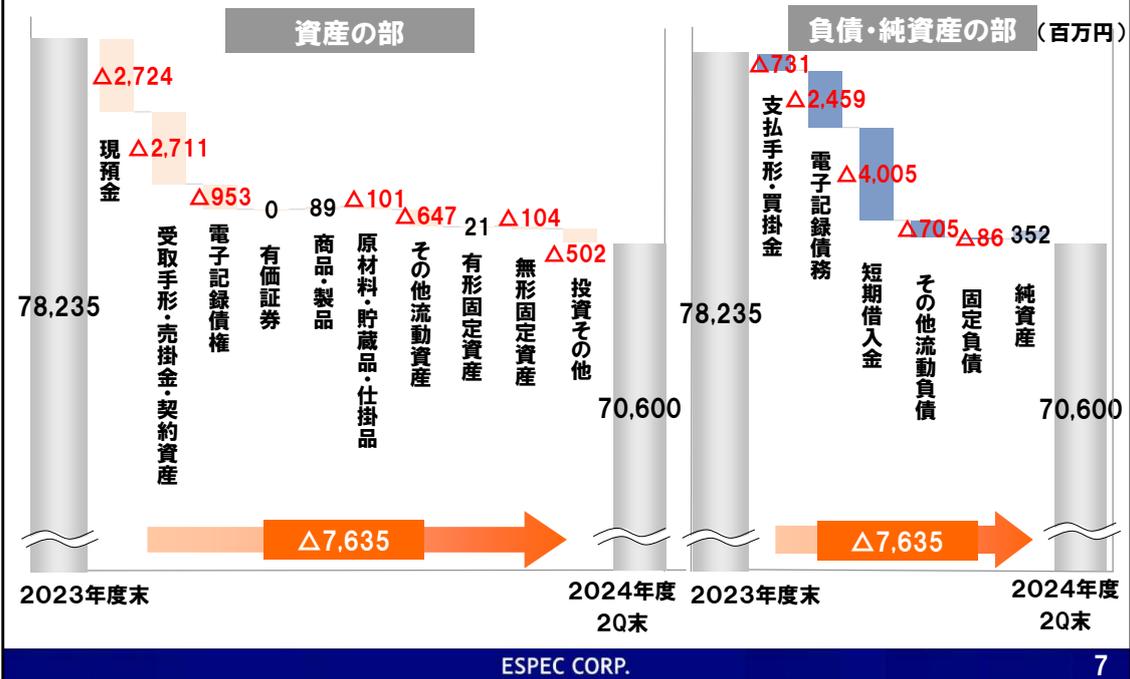
※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

こちらは、営業利益の増減要因分析です。

受注拡大に伴い販管費が増加したものの、主に装置事業の増収および値上げによる原価率の改善により、前年同期比で約9億円増加いたしました。

資産・負債の状況

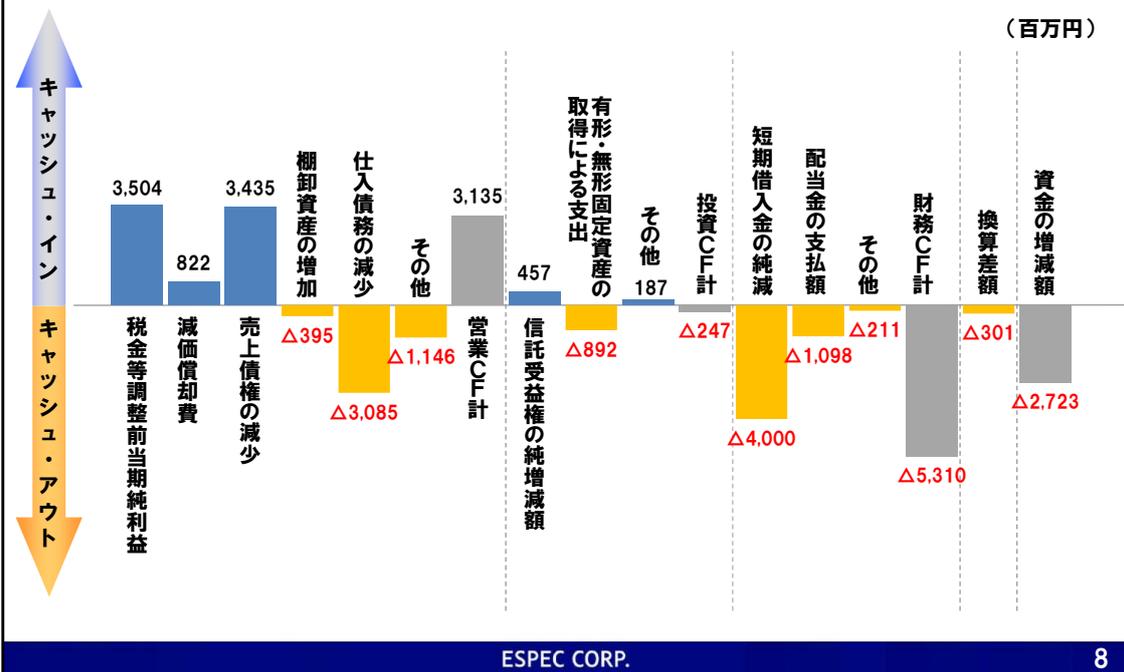
■ 売上債権の回収、短期借入金の返済などにより、総資産は76億円減少



次に資産・負債の状況ですが、
売上債権の回収、短期借入金の返済などにより、
総資産は約76億円減少しました。

キャッシュフローの状況

■ 営業CFは約31億円のキャッシュインとなったが、主に短期借入金の返済により資金は約27億円減少



キャッシュフローの状況につきましては、
 営業キャッシュフローは約31億円のキャッシュインとなりましたが、
 主に短期借入金の返済により資金は約27億円減少しました。

装置事業セグメント

	(百万円)				
	2023年度 2Q累計実績	2024年度 2Q累計予想	2024年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
受注高	29,198	26,900	31,868	+9.1%	+18.5%
売上高	23,533	26,600	26,469	+12.5%	△0.5%
営業利益 利益率 (%)	2,175 9.2%	2,680 10.1%	3,013 11.4%	+38.5%	+12.4%

環境試験器

- 国内では、前年同期比で受注高・売上高ともに増加。汎用性の高い標準製品の受注高は前年同期並み、売上高は増加。カスタム製品は自動車関連を中心に好調、受注高・売上高ともに増加
- 海外では、受注高は増加、売上高は前年同期並み。受注高は主に中国、韓国、欧州が増加。売上高は北米、東南アジア、台湾が増加、中国は前年同期並み、欧州は減少

エナジーデバイス装置

- 受注高は主に国内において大型案件のあった前年同期比で減少、売上高は国内および北米向けの装置の売上計上により大幅に増加

半導体関連装置

- 受注高はサーバー関連の大型案件の受注により、前年同期比で大幅に増加、売上高はメモリ関連の投資抑制の影響を受け、大幅に減少

次に、セグメント別の状況についてご説明いたします。

装置事業セグメントにつきましては、主に環境試験器が好調に推移し、前年同期比で受注高・売上高・営業利益、いずれも増加いたしました。

製品群ごとの状況はご覧のとおりです。

サービス事業セグメント

(百万円)

	2023年度 2Q累計実績	2024年度 2Q累計予想	2024年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
受注高	3,785	3,700	4,176	+10.3%	+12.9%
売上高	3,445	3,500	3,701	+7.4%	+5.8%
営業利益 利益率 (%)	249 7.2%	250 7.1%	324 8.8%	+30.3%	+29.9%

アフターサービス・エンジニアリング

- 予防保全サービス・修理サービスともに堅調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

受託試験・レンタル

- 車載用バッテリーを中心に受託試験が好調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

次にサービス事業ですが、
特に受託試験サービスが車載用バッテリーを中心に好調に推移し、
前年同期比で受注高・売上高・営業利益、いずれも増加いたしました。

またサービス群ごとの状況につきましてはご覧の通りです。

その他事業セグメント

(百万円)

	2023年度 2Q累計実績	2024年度 2Q累計予想	2024年度 2Q累計実績	前年同期比	予想比
受注高	655	600	808	+23.2%	+34.7%
売上高	475	600	521	+9.6%	△13.0%
営業利益 利益率(%)	△88 △18.6%	△30 △5.0%	△31 △5.9%	-	-

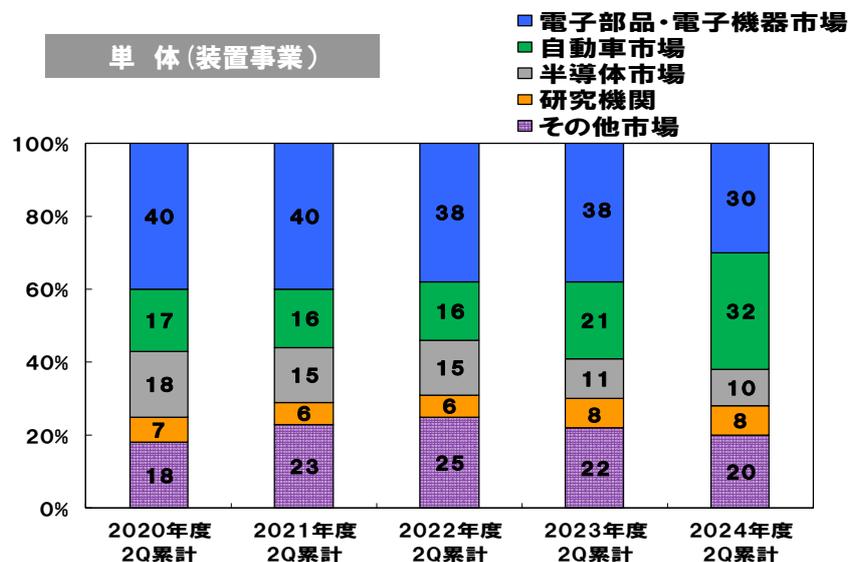
環境保全・植物育成装置

- 水辺づくりや屋上緑化などが堅調に推移し、前年同期比で受注高・売上高ともに増加

その他事業につきましては、受注高・売上高ともに増加し、利益面におきましても前年同期比で改善しましたが、営業損失となりました。

市場別売上構成比

■ EV・バッテリー向けの売上計上が進み、自動車市場の構成比が増加



ESPEC CORP.

12

こちらはエスペック単体の市場別売上構成比です。

ブルーの電子部品・電子機器市場は、受注高は微増となりましたが、売上高は減少し、比率としては8ポイント低下いたしました。

グリーンの自動車市場は、EV・バッテリーを中心に受注が拡大し、売上高は、生産能力拡充の効果もあり増加、比率は11ポイント上昇しました。

グレーの半導体市場は、受注高は韓国や中国など海外を中心に増加しましたが、売上高はメモリ関連の投資抑制により減少し、比率は1ポイント低下しました。

オレンジの「研究機関」は民間や国公立の研究機関や受託試験機関が含まれます。昨年より継続して、韓国を中心に受託試験機関向けの受注が堅調に推移し、売上高は増加、比率としては昨年と同じ8%となりました。

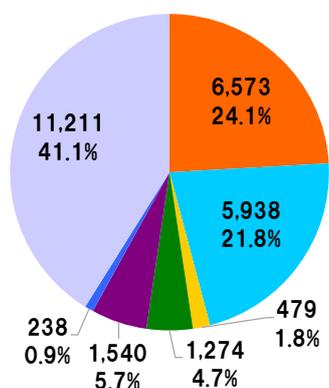
一番下の「その他市場」には、化学、建築材料、食品、化粧品などさまざまな業種が含まれており、例年20～25%を占めております。

地域別売上構成比

■ 売上高は特に日本、北米が増加、中国は前年同期並み

2023年度2Q累計

海外売上高比率:58.9%

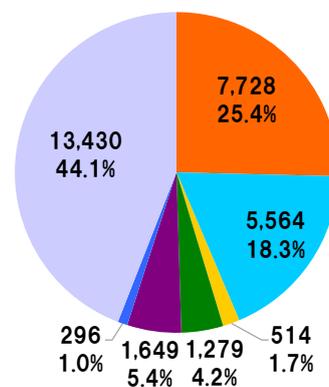


計 27,257百万円

海外売上高:16,045百万円

2024年度2Q累計

海外売上高比率:55.9%



計 30,464百万円

海外売上高:17,033百万円

ESPEC CORP.

13

地域別の売上構成比につきましては、海外売上高比率は55.9%となりました。

地域別では、北米は、宇宙・通信衛星関連を中心に堅調に推移し、受注高は前年同期並みとなり、売上高は大幅に増加、比率も上昇しました。

欧州は、環境規制に伴うかけこみ受注により受注高は大きく増加しましたが、売上高は減少、比率も低下しました。

中国については、EV、電子部品関連が堅調に推移し、受注高は増加したものの、売上高は前年同期並み、比率としては減少いたしました。

東南アジアおよびインドにつきましては、ベトナム、タイ、インドが堅調に推移し、受注高は前年同期並み、売上高は増加、比率としてはやや低下しました。

国内についてはEV・バッテリー関連の投資が好調に推移し、受注高・売上高ともに増加、比率も上昇しました。

2024年度 業績予想について

■ 通期業績予想のポイント

- ・通期受注高を上方修正、上期の勢いは落ち着くものの好調を維持
- ・長納期の案件の増加、および中国・欧州の減速をふまえ、
通期売上高・営業利益は期初計画を据え置く
- ・先端技術分野での営業活動強化や生産の効率化によりさらなる収益拡大を目指す

■ 想定為替レート

	2022年度	2023年度		2024年度	
	通期実績	上期実績	通期実績	上期実績	通期想定
USD/円	135.51	141.06	144.59	152.77	145

2024年度為替感応度(対ドル1円円安):売上高190百万円増加、営業利益41百万円増加

続いて、2024年度の通期業績予想についてご説明いたします。

受注高につきましては、期初予想を大きく上振れたことから上方修正いたしました。今後は上期の勢いは落ち着くものの、好調を維持すると見ております。

一方で、長納期の案件の増加や、中国・欧州の減速をふまえ通期売上高・営業利益につきましては、期初計画を据え置いております。

しかしながら、先端技術分野での営業活動強化や、生産の効率化によりさらなる収益拡大を目指してまいります。

また、想定為替レートにつきましては、期初想定 of 1ドル145円から変更しておりません。

2024年度 通期業績予想

	(百万円)					
	2023年度	2024年度	2024年度			
	通期実績	通期期初予想	上期実績	予想 (受注高・売上総利益・販管費を修正)		
				下期	通期	前期比
受注高	62,290	63,000	36,621	30,379	67,000	+7.6%
売上高	62,126	65,000	30,464	34,535	65,000	+4.6%
売上総利益 利益率(%)	21,994 35.4%	22,600 34.8%	11,137 36.6%	12,087 35.0%	23,225 35.7%	+5.6% +0.3pt
販管費 販管費率(%)	15,408 24.8%	15,600 24.0%	7,841 25.7%	8,383 24.3%	16,225 25.0%	+5.3% +0.2pt
営業利益 利益率(%)	6,585 10.6%	7,000 10.8%	3,296 10.8%	3,704 10.7%	7,000 10.8%	+6.3% +0.2pt
経常利益 利益率(%)	6,919 11.1%	7,200 11.1%	3,398 11.2%	3,801 11.0%	7,200 11.1%	+4.0% ±0pt
親会社株主に帰属する 当期純利益 利益率(%)	4,969 8.0%	5,200 8.0%	2,452 8.1%	2,747 8.0%	5,200 8.0%	+4.6% ±0pt
1株当たり当期純利益(円)	227.61	238.18	112.34	125.84	238.18	+4.6%
ROE	10.0%	9.6%	—	—	9.6%	△0.4pt

ESPEC CORP.

15

先ほどものご説明のとおり、通期の受注高予想を630億円から670億円に修正いたしました。

売上高、営業利益につきましては、ご覧のとおり、期初予想から変更しておりませんが、売上総利益、販管費は見直しております。

なお、上期末時点の受注残高は336億円となっております。

2024年度 投資計画

(百万円)

	2023年度	2024年度	2024年度			
	通期実績	通期期初予想	上期実績	予想(期初から修正なし)		
				下期	通期	前期比
設備投資額	2,695	3,190	1,008	2,182	3,190	+18.3%
減価償却費	1,492	1,670	818	852	1,670	+11.9%
研究開発費	1,239	1,330	692	638	1,330	+7.3%

主な投資内容

- ・新試験所開設、試験設備増強
- ・生産能力増強

主な開発内容

- ・先端技術分野の製品ラインアップ拡充
- ・低GWP冷媒など環境配慮型製品の拡充

設備投資額、減価償却費、研究開発費の計画に変更はございません。

環境認識

■ 受注は上期の勢いは落ち着くが、日本のEV・バッテリーなどの需要は継続、中国・欧州は減速を懸念

装置事業	環境試験器	日本 : 大型案件は減少するものの、EV・バッテリー関連の投資は継続 IoT関連の投資は堅調に推移 中国 : EV・半導体関連の投資は継続するが、さらなる経済減速を懸念 ASEAN・インド : 自動車・半導体関連を中心に堅調 北米 : 宇宙・通信衛星関連は堅調 欧州 : 経済減速による投資抑制を懸念
	エナジーデバイス装置	国内を中心に堅調に推移し、前期並みの受注を維持すると予想
	半導体関連装置	メモリ関連の投資が緩やかに回復すると予想
サービス事業	アフター・エンジン 受託試験・レンタル	アフター・エンジン : 前期と同水準になると予想 受託試験 : 車載用バッテリーの充放電試験・安全性試験が引き続き好調
その他事業	環境保全 植物育成装置	主に環境保全事業が堅調に推移し、前期を上回ると予想

こちらは現在のセグメントごとの環境認識です。

受注については、日本のEV・バッテリーなどの需要は継続すると考えておりますが、中国、欧州は減速を懸念しております。

環境試験器につきましては、日本では、これまでのような大型の案件は減少するものの、EV・バッテリーの投資が継続し、IoT関連も堅調と見ております。中国は、EV・半導体関連の投資は継続すると見ていますが、さらなる経済減速を懸念しております。

ASEAN・インドは、自動車・半導体関連を中心に堅調に推移すると見ております。北米は、EV・バッテリー関連は注視が必要ですが、宇宙・通信衛星関連は堅調と見ております。

欧州は、経済減速による投資抑制を懸念しております。

エナジーデバイス装置につきましては、国内を中心に堅調に推移し、前期並みの受注を維持すると予想しています。

半導体関連装置につきましては、メモリ関連の投資が緩やかに回復すると見ております。

受託試験につきましては、車載用バッテリーの試験が引き続き好調と考えております。

セグメント別の業績予想

(百万円)

		2023年度	2024年度	上期実績	2024年度		
		通期実績	通期期初予想		予想(受注高を修正)		
					下期	通期	前期比
装置事業	受注高	53,565	53,700	31,868	25,831	57,700	+7.7%
	売上高	53,518	56,000	26,469	29,531	56,000	+4.6%
	営業利益	5,848	6,180	3,013	3,167	6,180	+5.7%
サービス事業	受注高	7,634	8,000	4,176	3,824	8,000	+4.8%
	売上高	7,536	7,900	3,701	4,199	7,900	+4.8%
	営業利益	681	800	324	475	800	+17.3%
その他事業	受注高	1,453	1,700	808	892	1,700	+16.9%
	売上高	1,455	1,500	521	978	1,500	+3.0%
	営業利益	51	20	△31	51	20	△61.1%
連結消去	受注高	△363	△400	△232	△168	△400	-
	売上高	△383	△400	△227	△172	△400	-
	営業利益	3	0	△10	11	0	-
計	受注高	62,290	63,000	36,621	30,379	67,000	+7.6%
	売上高	62,126	65,000	30,464	34,535	65,000	+4.6%
	営業利益	6,585	7,000	3,296	3,704	7,000	+6.3%

ESPEC CORP.

18

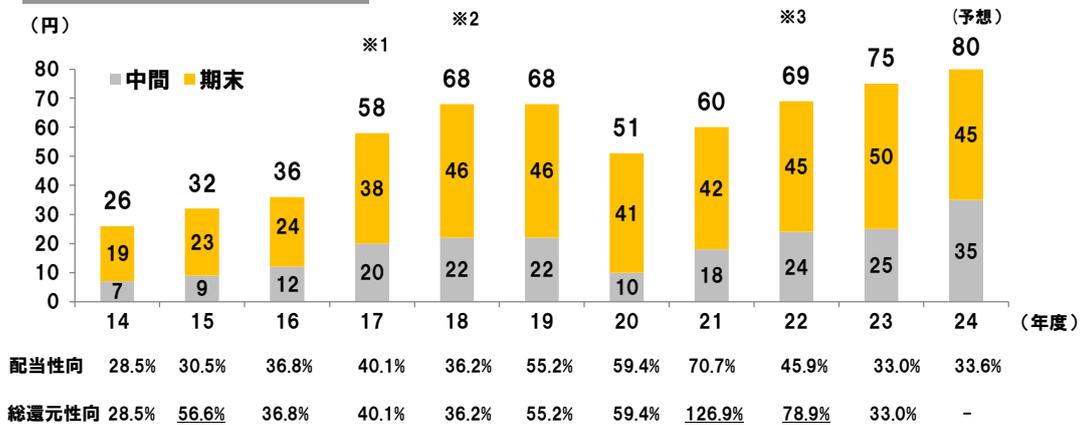
こちらはセグメント別の業績予想です。

装置事業の受注高を、期初予想からプラス40億円としております。

2024年度 配当予想

■ 2024年度配当予想は年間80円から変更なし、配当性向は33.6%を予想

一株当たり配当金と配当性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

配当予想につきましては、期初より変更しておりません。

配当性向は33.6%となる見込みです。

配当基本方針

継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本とする
配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に上乗せする
また、必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する



※安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う

配当方針につきましては、ご覧の通りです。

2024年度 主な取り組み

装置事業

- ・国内の生産能力増強(要員増加、生産スペース拡大、外注活用)
- ・高付加価値製品のラインアップの拡充

サービス事業

アフターサービス:「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大
受託試験 :「あいち次世代モビリティ・テストラボ」サービス開始
あいちバッテリー安全認証センター開設、豊田試験所機能拡張

エリア戦略

日本:EV・バッテリー/IoT・半導体分野での営業活動強化
北米:グループ連携によるEV・バッテリー分野での営業活動強化、宇宙・通信衛星分野での販売拡大
中国:グループ連携による安定収益の確保
欧州:環境規制に対応した製品ラインアップの拡充
韓国:グローバル大企業への販売拡大、受託試験機関への販売強化

2024年度の主な取り組みに大きな変更はございませんが、装置事業では、引き続き国内の生産能力増強と高付加価値製品のラインアップの拡充に取り組み、収益力を強化してまいります。

サービス事業につきましては、受託試験において、愛知県でのサービス拡充を予定しております。後ほどご説明いたします。

エリア戦略につきましては、日本、北米、韓国において、EV・バッテリーやIoT分野での活動を強化いたします。

2024年度 ESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022~2025年度)の推進
- ・地球温暖化対策:
低GWP冷媒への置き換え、製造など事業活動におけるCO₂排出量削減
- ・生物多様性保全活動:
事業による貢献、「エスペック50年の森」運営による保全活動の推進

■S(社会)

- ・人的資本の最大化:
執行役員・管理職のマネジメント力強化、人事評価制度・教育制度の改革、
コミュニケーション活性化によるエンゲージメントの向上
- ・ダイバーシティの推進:
女性管理職の育成、シニア社員・外国人の活躍推進

■G(ガバナンス)

- ・グループガバナンスの強化:
子会社ガバナンスの強化、内部統制システムの強化

ESGの取り組みにつきましても、ご覧のとおり、着実に進めてまいります。
なお、人的資本の最大化につきましては、特にエンゲージメントの向上に
取り組んでおります。

TOPICS 1

「あいち次世代モビリティ・テストラボ」サービス開始 車載用バッテリーおよびEV・自動化モジュールの試験需要に対応

■あいちバッテリー安全認証センター

- ・国内最大級の車載用バッテリー専門試験所として2025年2月開設予定(2024年10月受付開始)
- ・最新の試験設備により、車載用バッテリーの大型化・高容量化に対応
- ・国連規則ECE-R100の安全性試験をはじめとする各種試験規格に対応



「あいちバッテリー安全認証センター」イメージパース
(愛知県常滑市)

■豊田試験所

- ・当社最大の総合試験所である豊田試験所の機能を拡張予定(2025年4月サービス開始)
- ・e-Axle・PCU・ECUなど供試品の大型化に対応
- ・EV・自動化モジュールの動作状態での使用環境を再現し、評価・計測するサービスを新たに強化



豊田試験所(愛知県豊田市)

次に、TOPICSですが、
車載用バッテリーおよびEV・自動化モジュールの受託試験サービス強化に向け、
「あいち次世代モビリティ・テストラボ」のサービスを開始いたします。

2025年2月、常滑市に「あいちバッテリー安全認証センター」を開設するほか、
当社最大の総合試験所である「豊田試験所」の機能を拡張予定です。

最新の試験設備と高い試験技術・知見を活かし、次世代モビリティの技術革新
および社会実装に貢献してまいります。

TOPICS 2

低GWP冷媒搭載 低温恒温（恒湿）器 プラチナスJシリーズ ECOタイプを発売

- ・2024年11月、環境試験器のグローバルスタンダードモデル「プラチナスJシリーズ」よりECOタイプを発売
- ・独自の冷凍技術により、現行モデルと比較して消費電力を最大70%低減、低GWP※冷媒「R-449A」搭載により温室効果ガス排出量削減に貢献



低温恒温（恒湿）器プラチナスJシリーズ ECOタイプ

低GWP冷媒搭載 急速温度変化装置を コスモビアハイテックが国内で初めて発売

- ・2024年10月、当社グループのコスモビアハイテックが国内初となる低GWP※冷媒「R-473A」搭載の急速温度変化装置を発売
- ・国際的な試験規格に適合するとともに、温室効果ガス排出量削減に貢献



急速温度変化装置プレミアムエクセレントシリーズ（EC-28PXHH）

※二酸化炭素を基準に、ほかの温室効果ガスの温暖化する能力を表した数字のこと。値が小さいほど環境負荷が少ない

また、ご覧のとおり、
省エネなど環境に配慮した製品のラインアップを拡充しております。

社外からの評価

■2024年

- 11月・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 SDGs経営編」3.5つ星
- ・日本経済新聞社「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」3つ星
- 9月・「Gomez ESGサイトランキング2024」優秀企業
- 7月・英フィナンシャル・タイムズ、独調査会社スタティスタ
「アジア太平洋地域気候変動リーダー企業」に2年連続で選出
- 3月・CDP「サプライヤーエンゲージメント評価」
2年連続 最高評価の「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー」
- 2月・CDP 気候変動分野で4年連続「Bスコア」、水セキュリティは「C-スコア」
- ・東洋経済新報社「2024年版CSR企業ランキング」375位

■2023年

- 12月・「Gomez IRサイトランキング2023」銅賞（業種別27位）
- ・「大和インターネット IR表彰2023」優良賞
- ・「2023年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト

■ESG指数組入れ

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index（2022年4月初選定）

NIKKEI
Smart Work

☆☆☆ 2025



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

こちらが最後のスライドですが、当社をご覧のような社外からの評価を、
社内の改善・改革に活かしてまいります。

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川

IR・広報グループ 大川・貝川

以上をもちまして、私からのご説明を終わらせていただきます。
ご清聴ありがとうございました。

Quality is more than a word

ESPEC